ISSN　2187-6177

日本語音声コミュニケーション　13

Japanese Speech Communication 13

2025. 3

日本語音声コミュニケーション学会
Society of Japanese Speech Communication

製作　ひつじ書房

目 次

発刊のことば

特集　音声と感情、発話態度

英文

招待論文

Mandible Dancing, a way to teach language rhythm

Donna Erickson 1

和文

論文

日本語母語話者による日本語の方言のイメージ

―日本語母語話者を対象とした聴取調査から―

陳曦・植田尚樹 20

研究ノート

飲食店の接客音声

―高級店と一般店の違いを聞き手はどう聞き分けるか―

織田笑歌・中北美千子 40

研究ノート

「かわいい」日本人日本語教師 YouTuber の言語・非言語特性

―英語教師 YouTuber との比較を通して―

陳喆 66

著者紹介

雑誌の案内（投稿の方法、連絡先）

編集後記

発刊のことば

日本語の音声コミュニケーションとその教育を専門に考える研究会「日本語音声コミュニケーション教育研究会」[*]を，私たちが日本語教育学会のテーマ研究会として作ったのが 2006 年の 4 月です。ようやく 7 年目にして，会誌の発刊という悲願を達成できました。ご協力を賜りました方々に心よりお礼申し上げたいと思います。ありがとうございます。

『日本語音声コミュニケーション』（英語名 *Japanese Speech Communication*）は，マルチメディアを駆使したオンラインジャーナルです。紙媒体の雑誌や本と違って，動画そのもの，音声そのものを掲載することができ，掲載されたものは世界じゅうで視聴されます。文字では書き表せないような，ちょっとした「日本的」な仕草でも，日本語を発音している被験者の口の中を撮った MRI 動画でも，日本語の教室の様子でも，世界に向けて発表することができます。

日本語の音声コミュニケーションとその教育に関する私たちの理解をさらに深め，研究を活性化していくために，本誌をご活用下さいましたら幸甚です。

2013 年　3 月吉日

「日本語音声コミュニケーション教育研究会」代表幹事
定延利之

[*] 2017 年より、「日本語音声コミュニケーション学会」となりました。本「発刊のことば」は、第 1 号刊行時の掲載文をそのまま掲載しています。

著者紹介

Donna M. Erickson

Current position: Researcher, Haskins Laboratories, New Haven, Connecticut, USA

Main research field: Articulatory phonetics

Main books and papers:

・Erickson, D., Svensson Lundmark, M., and Huang, T. (to appear) Jaw opening patterns and their correspondence with syllable stress patterns. In Lars Meyer and Antje Strauss, (eds). *Rhythms of Speech and Language*. Cambridge University Press. https://doi.org/10.31219/osf.io/zd28c

・Svensson Lundmark, M. and Erickson, D. (2024) Segmental and syllabic articulations: a descriptive approach. *J. Speech Language and Hearing Res*., https://doi.org/10.1044/2024_JSLHR-23-00092

・Erickson, D. and Niebuhr, O. (2023) Articulation of prosody and rhythm: Some possible applications to language teaching, *Studies in Laboratory Phonology*. Language Science Press (langsci-press.org), pp.1-45. DOI: 10.2478/9788366675728-001.

・Erickson, D. and Kawahara, S. (2016) Articulatory correlates of metrical structure: Studying jaw displacement patterns. *Linguistic Vanguard* 2, pp.102-110. De Gruyter Mouton. DOI 10.1515/lingvan-2015-0025.

・Erickson, D., Kawahara, S., Shibuya, Y., Suemitsu, A. and Tiede, M. (2014) Comparison of jaw displacement patterns of Japanese and American speakers of English: A preliminary report. *Journal of Phonetic Society of Japan*, 18, pp. 88-94.

・Erickson, D., Suemitsu, A., Shibuya, Y., and Tiede, M. (2012) Metrical structure and production of English rhythm. *Phonetica*.69, 180–190.

・Erickson, D. (2002). Articulation of extreme formant patterns for emphasized vowels. *Phonetica*, 59, 134-149.

陳曦（ちん ぎ）

早稲田大学商学学術院商学部講師（任期付）

主な研究分野：日本語学、音声学

主な著書・論文

・「後部要素が状態や動作をあらわす 4 字漢語のアクセントの自然度評価」『音韻研究』21,（日本音韻論学会、2018）

・「複合名詞のアクセントの融合・非融合—後部要素のあらわす意味に焦点を当てるか否かによる影響—」『音声研究』25（日本音声学会、2022）

CHEN, Xi

Assistant Professor (without tenure) Faculty of Commerce, School of Commerce, Waseda University

Main topics of research: Japanese linguistics, Phonetics

Main publications:

・Naturalness Evaluation of Accent in Japanese Four-Kanji Compound Words with the Second Element Representing a State or Action. *Phonological Studies*, 21 (The Phonological Society Japan, 2018).

・Fusion and non-fusion accents of Japanese compound nouns: The effect of focusing on the meaning of the posterior element. *Journal of the Phonetic Society of Japan*, 25 (Phonetic Society of Japan, 2022).

植田尚樹（うえた なおき）

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助教

主な研究分野：音声学、音韻論

主な著書・論文

・『モンゴル語の母音：実験音声学と借用語音韻論からのアプローチ』京都大学学術出版会、2019.

・The Merger between /ʊ/ and /o/ in Khalkha Mongolian: A Study Based on an Acoustic Analysis and a Perceptual Experiment.『北方言語研究』11（日本北方言語学会、2021）

・Asymmetries in the Consonant System of Khalkha Mongolian: An Element Theory Analysis.『音韻研究』27（日本音韻論学会編、2024）

UETA, Naoki

Assistant Professor, Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies

Main Topics of research: Phonetics, Phonology

Main publication:

・*Mongolian Vowels: Approaches from Experimental Phonetics and Loanword Phonology*. Kyoto University Press, 2019.

・The Merger between /ʊ/ and /o/ in Khalkha Mongolian: A Study Based on an Acoustic Analysis and a Perceptual Experiment. *Northern Language Studies* 11 (Japan Association of Northern Language Studies, 2021)

・Asymmetries in the Consonant System of Khalkha Mongolian: An Element Theory Analysis. *Phonological Studies* 27 (The Phonological Society of Japan [ed.], 2024)

織田笑歌（おだ えみか）

ホテル従業員（名古屋外国語大学卒業生）

ODA, Emika

Hotel Employee（Nagoya University of Foreign Studies Graduate）

中北美千子（なかきた みちこ）

名古屋外国語大学准教授

主な研究分野：日本語学、コミュニケーション科学

主な著書・論文：

・「The Effect of a One-Month Study Abroad Program on Japanese Students' Perception of Prosody of Spoken English」『名古屋外国語大学論集』8（名古屋外国語大学、2021）

・「「カスタマーサポート」のジレンマ：顧客へのテキストメッセージに見られる「わかりやすさ」と「丁寧さ」のトレードオフ」『名古屋外国語大学論集』11（藤原未雪氏と共著、名古屋外国語大学、2022）

・「「簡潔でわかりやすい」書き方が好まれないとき：フリマアプリの「事務局からのお知らせ」を読む大学生が重視するもの」『名古屋外国語大学論集』13（藤原未雪

氏と共著、名古屋外国語大学、2023）

NAKAKITA, Michiko

Associate Professor, Nagoya University of Foreign Studies, Japan

Main topic of research: Japanese linguistics, Communication Sciences

Main publications:

・The effect of a one-month study abroad program on Japanese students' perception of prosody of spoken English. In *Bulletin of Nagoya University of Foreign Studies,* 8 (Nagoya University of Foreign Studies, 2021).

・The dilemma of customer support: Tradeoffs between politeness and clarity in text-based communication with customers. In *Bulletin of Nagoya University of Foreign Studies,* 11 (Co-author with Miyuki Fujiwara, Nagoya University of Foreign Studies, 2022).

・When "clear and concise" is not always preferred: Exploring college students' preferences for notification texts from a marketplace app's administrative office. In *Bulletin of Nagoya University of Foreign Studies,* 13 (Co-author with Miyuki Fujiwara, Nagoya University of Foreign Studies, 2023).

陳喆（ちん てつ）

江西理工大学外国語学院助教・東京都立大学人文科学研究科博士後期課程

主な研究分野：日本語教育学、日本語学

メールアドレス：tinaly216@hotmail.com

CHEN, Zhe

Assistant Professor at School of Foreign Languages, Jiangxi University of Science and Technology, China.

Doctoral student at Graduate School of Humanities, Tokyo Metropolitan University, Japan.

Main topics of Research: Japanese Language Education, Japanese linguistics.

Email Address: tinaly216@hotmail.com

雑誌の案内（投稿の方法、連絡先）

『日本語音声コミュニケーション』（Japanese Speech Communication）は、日本語音声コミュニケーション学会の会員であれば、どなたでも投稿できます。（但し、会員以外からの投稿も編集委員会の判断で認めることがあります。）

研究会の「入会案内」については、下記の web ページをご参照下さい。
https://sites.google.com/view/nihononsei/membership

「投稿要領」と「編集委員会会則」については、下記の web ページをご参照下さい。
https://sites.google.com/view/nihononsei/publication

編集委員会のメンバーについては、下記の web ページをご参照下さい。
https://sites.google.com/view/nihononsei/history

その他のお問い合わせは、下記までお願い致します。
松田真希子（まつだ　まきこ）（代表理事）
japanesespeechcommunication[at]gmail.com（[at] の部分を @ に変えてご送信下さい。）
〒 192-0364　東京都八王子市南大沢 1-1
東京都立大学　松田真希子研究室内

編集後記

会員のみなさん、『日本語音声コミュニケーション 13』の特集は、「音声と感情、発話態度」です。

感情や発話態度は、音声にこそ現れます。が、それを客観的に分析、記述することはできるのでしょうか。寄せられた論考に、請うご期待！！

2024 年 9 月 3 日の朝日新聞に、「稼げなくても… 日本を選ぶ留学生」という記事が掲載されました。「コロナ禍が落ち着き」、「日本語学校への留学生は過去最多になった」、「アルバイトに明け暮れるようなかつてのイメージは様変わりし」、「賃金の相対的な低下や弱い円のため「稼げない国」と言われるようになった日本だが、留学生の価値観は多様化し、大半が日本での進学や就職をめざしている」、「留学生の多くは卒業後、引き続き日本で高度人材として働く道を選んでいる」とあります。

日本社会において、かつては、私の教え子たちは、「アルバイトに明け暮れる」安い労働力であり、今は、「高度人材として働く」労働力なんだなと思いました。

そして、この記事は、「19 年には日本語教育推進法が施行され、今年度は文部科学省が適正な学校を認定する手続きが始まった。これまでは正式な資格がなかった日本語教師も、国家資格としての試験や登録が始まる」で終わります。

国の体制が整備されていきます。

私は、40 年以上、日本語教師として、非日本語話者に日本語を教えてきました。労働力のためではなく、学習者のためにです。

目の前にいる学習者たちに、より楽しい授業を提供したいと思います。そのためには、日本語やその音声、言語の運用の仕方、教育方法などについての研究が重要です。

みな様からのご投稿をお待ちしています。

馬場良二（編集委員会委員長）

日本語音声コミュニケーション学会
Society of Japanese Speech Communication

日本語音声コミュニケーション 13

Japanese Speech Communication 13

インタラクティブ PDF 版

発行　2025 年 3 月 28 日　初版 1 刷
著者　日本語音声コミュニケーション学会
https://sites.google.com/view/nihononsei/
発行・製作　株式会社 ひつじ書房
〒 112-0011 東京都文京区千石 2-1-2　大和ビル 2F
Tel.03-5319-4916 Fax.03-5319-4917
郵便振替 00120-8-142852
toiawase@hituzi.co.jp　https://www.hituzi.co.jp/

ISSN　2187-6177